

英語で思いや考えを伝え合う力を育成するための学習指導

～即興で「やり取り」する言語活動の工夫を通して～

糸満市立糸満中学校教諭 阿波連美奈子

I テーマ設定の理由

生活スタイルの変化や地域社会のあり方の変化、子どもの遊びの変化などに伴い、直接の対話によるコミュニケーションを苦手とする生徒が増えている。必ずしも気の合う人だけがいるという状況ではない学級において、相手に配慮しながら、コミュニケーションを図る資質・能力を育むことは、実生活で必要なコミュニケーション力を育むことにもなる。またお互いを知り、信頼関係を築く事にもなると考える。実生活で使える、思いや考えを伝え合う力を付けさせるために、授業における言語活動を通して「相手に配慮すること」と「自分の思いや考えを表現すること」を意識させ、コミュニケーション能力を育みたい。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編」(以下「解説外国語編」と表す)の総説における改訂の趣旨に「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされる」と述べられている。英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことは、生徒の可能性を広げることにともなると考える。

平成29年告示中学校学習指導要領外国語(以下「学習指導要領」と表す)の目標では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を(中略)育成することを目指す。」と示されている。つまり、実生活で、他者との英語を使って思いや考えを伝え合う力が必要となると考える。

これまでの指導を振り返ると、教師主導型の一斉授業が多く、また、活動はドリルやゲームが中心で、生徒が主体的に思考・判断・表現する場面の設定が不十分であった。生徒自身の思いや考えを伝えさせる場面が少なかった。また、話す活動においては、あらかじめ用意させた原稿をもとに、発表やスキット等を行っていた。その結果、実生活で使えるような、自分自身の思いや考えを伝える力を身に付けさせることが不十分であった。

そこで「学習指導要領」で新しく追加された「やり取り」の領域を通して生徒に対話で思いや考えを伝え合う力を育みたい。「やり取り」の領域で重要なのは言語活動の工夫だと考える。本研究では、「目的や場面、状況など」を明示し、既習事項や新出表現を使って、即興で「やり取り」する場面を設定するなど言語活動を工夫し、生徒が主体的に話そうとする態度を身に付けさせたい。それによって英語で思いや考えを伝え合う力が身に付くだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

英語学習において、「目的や場面、状況など」を明示し、既習事項や新出表現を使って即興で「やり取り」する言語活動を行うことにより、主体的に学ぶ態度を育成することができ、英語を使って思いや考えを伝え合う生徒が育つであろう。

2 検証計画

事前に行うアンケート調査・インタビューテスト等から、生徒の実態調査・分析・把握を行う。検証授業は、2年2組の学級で11時間行う。検証授業では、生徒の発言、ペア活動の様子、ワークシートの記述、振り返り等により生徒の伝え合う力が育まれたかを考察する。単元終了後にアンケート・インタビューの事後テストを実施し、事前調査との比較・分析を行い本研究の仮説を検証していく。

検証授業の対象：糸満中学校 2年2組 (男子17名 女子20名 計37名)		主な検証方法				
1 事前調査	○英語に関する事前アンケート (6月) ○事前インタビューテスト (6月)	・事前アンケートと事前インタビューテストの分析				
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・第1時 (6/27) アンケート・事前インタビューテスト ・第2時 (6/28) ・第3時 (7/1) ・第4時 (7/2) ・第5時 (7/3) ・第6時 (7/8) ・第7時 (7/9) ・第8時 (7/10) 検証授業 ・第9時 (7/12) ・第10時 (7/16) アンケート・事後インタビューテスト ・第11時 (7/17) 事後インタビューテスト </td> <td> ・生徒が既習事項を用いるなど工夫しながら英語で伝え続けようとしているか。 ・言語活動を工夫することにより生徒に思いや考えを伝える力をつけることができたか。 </td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	・第1時 (6/27) アンケート・事前インタビューテスト ・第2時 (6/28) ・第3時 (7/1) ・第4時 (7/2) ・第5時 (7/3) ・第6時 (7/8) ・第7時 (7/9) ・第8時 (7/10) 検証授業 ・第9時 (7/12) ・第10時 (7/16) アンケート・事後インタビューテスト ・第11時 (7/17) 事後インタビューテスト	・生徒が既習事項を用いるなど工夫しながら英語で伝え続けようとしているか。 ・言語活動を工夫することにより生徒に思いや考えを伝える力をつけることができたか。	・授業観察 ・ワークシートの記述 ・振り返り ・授業記録
日程	検証の観点					
・第1時 (6/27) アンケート・事前インタビューテスト ・第2時 (6/28) ・第3時 (7/1) ・第4時 (7/2) ・第5時 (7/3) ・第6時 (7/8) ・第7時 (7/9) ・第8時 (7/10) 検証授業 ・第9時 (7/12) ・第10時 (7/16) アンケート・事後インタビューテスト ・第11時 (7/17) 事後インタビューテスト	・生徒が既習事項を用いるなど工夫しながら英語で伝え続けようとしているか。 ・言語活動を工夫することにより生徒に思いや考えを伝える力をつけることができたか。					
3 事後調査	○事後アンケート (7月) ○事後インタビューテスト (7月)	・事後アンケートの分析 ・ワークシートの評価 ・授業記録の分析 ・インタビューテストの分析				
4 まとめ	○相手に配慮して思いや考えを伝えようとしているか。 ○言語活動を工夫することにより生徒に思いや考えを伝える力をつけることができたか。	・事前・事後アンケートと事前・事後インタビューテストの比較・分析				

Ⅲ 研究内容

1 思いや考えを伝え合う力について

実生活において、言語は、自分自身の思いや考えを他者に伝えるためのツールである。思いや考えを伝える力をつけるためには、様々なことに関して興味や関心を抱き、それに関する自分自身の考えを持つことが大切である。学習指導要領は、自分自身の思いや考えを、一方向だけでなく他者と伝え合うことを求めている。思いや考えを伝え合うことにより、自分自身の考えが受け入れられたと実感したり、違う考えなどから新しい発見をしたりという過程を繰り返しながら、生徒自身の見方・考え方の幅を広げることが重要である。よって本研究では「やり取り」の領域に焦点をあて、生徒の思いや考えを伝え合う言語活動に取り組みたい。

2 言語活動の工夫について

表1は「学習指導要領」における「話すこと[やり取り]」の目標である。目標を達成するために(1)即興で「やり取り」すること(2)「目的や場面、状況など」を明示すること(3)既習事項を使って自分の思いや考えを伝えさせること(4)相手に配慮させることなどの工夫を取り入れた言語活動を行う。

表1 「学習指導要領」における話すこと[やり取り]の目標 (抜粋)

領域別の目標 話すこと[やり取り]		
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

(1) 即興で「やり取り」することについて

実生活の中で、英語を使ってコミュニケーションを行う際には、即座に「やり取り」する力が求められる状況が多い。「解説外国語編」にも述べられているように、不適切な間を置かずには相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことが重要である。英文を頭の中で組み立てる時間を長く取れないため、授業におけるコミュニケーションにおいても、「即興」という場面を設定することにより、実際の生活で活用できる伝え合う力を身に付けることが大切である。

(2) 「目的や場面、状況など」を明示することについて

実際の生活場面において言語は絶えず「目的や場面、状況など」の下で使われている。そこで、授業においても「目的や場面、状況など」を明確にした言語活動を設定する。そのことにより、生徒は実生活と同じ環境で英語を使う体験ができ、英語を学ぶ主体性が育まれると同時に、即興で思考する力、即興で判断する力、即興で表現する力が養われると考える。このことについて「解説外国語編」では『コミュニケーションを行う目的や場面、状況など』とは、コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境のことを指す。こうした『目的や場面、状況など』は、外国語を適切に使用するために必要不可欠である。」とされている。

(3) 既習事項を使って自分の思いや考えを伝えさせる

これまでの指導を振り返ると、授業において新しい文法事項にのみ焦点を当てることがあり、生徒が既習事項を忘れてしまっている、使えないという状況があった。そこで、「目的や場面、状況など」を考慮し、既習事項から適切な表現を選択するなど既習事項を「使える知識・技能」にしていくために、既習事項を思い出しながら「使って身に付けていく」という場面を設定したい。既習事項を使うことについて「解説外国語編」では「知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。」としている。

(4) 相手に配慮することについて

「解説外国語編」でも述べられているように、言語は人と人との関わりの中で用いられるため、他者を尊重し、相手に配慮しながら、コミュニケーションを図ることはとても重要である。また、これからの社会はグローバル化が進み、外国の人々と、英語を使ってコミュニケーションを行う機会はより多くなる。コミュニケーションを行う際、異文化で育った人たちの考えを受け入れるなど、多様な価値観を認め、自分自身の外国語による見方・考え方の幅を広げることが重要だと考える。したがって、実際の生活で活かせる、思いや考えを伝え合う力を付けるためには、授業においても、相手への配慮を意識させることが重要になると考える。

3 英語を主体的に話そうとする態度の育成

「解説外国語編」にもあるように、英語を主体的に話すとは、英語を使って自己表現をすることであると考える。英語を使って思いや考えを表現することにより、表現することを楽しむ経験ができ、英語を主体的に話そうとする態度が身に付くと考える。田中・田中（2008）は「実践的なコミュニケーション能力育成の基礎には、自分の気持ちや考えを伝えたり、自分の意志を示したりする自己表現能力の育成があることは言うまでもありません。自分の力で自分のことを英語で表現できる力こそが、授業での言語活動を通して育成すべき基礎的な力の一つなのです。」と述べている。

また、「解説外国語編」によると『知識及び技能』を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上する」と述べている。本研究では、言語活動を工夫することによって、生徒の主体的に話そうとする態度を育成し、思いや考えを伝える力を育成することについて研究する。

IV 検証授業

1 単元名 Lesson3 Flight to the U.K. (TOTAL ENGLISH 2)

2 単元の目標

- 話し相手に配慮して会話を継続させようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
- 自分自身の思いや考えを伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- 未来を表す表現、助動詞 will / be going to、を用いた文構造を理解する。 【知識及び技能】

3 単元について

(1) 教材観

この単元は、ヒロが一人で飛行機に乗ってイギリスに住んでいる叔母を訪れるという内容である。また、機内放送や入国カード、入国審査等について学ぶ良い機会であり、生徒が海外旅行等について興味を持つ機会にしたい。

言語材料は、助動詞の will、be going to の用法が扱われており、実際のコミュニケーションの場面でもよく使われる表現である。本単元では、助動詞の will、be going to の文構造を理解し、適切な文脈や場面で使用する力を身に付けさせたい。生徒が主体的に英語で思いや考えを伝え合う力を付けることができるよう、コミュニケーションの「目的や場面、状況など」を明示し、ペアでの「やり取り」を設定する。段階的指導として、①導入時に行う帯活動と教師による Small Talk で、既習表現を活用させる活動をする。②口頭での新出文法ドリルを行い定着させる。③「目的や場面、状況など」を明確にした即興によるペアでの「やり取り」の場面を設定する。④会話を始めたり、継続発展させるために役に立つ表現などを練習する。本単元では、「話すこと [やり取り]」に焦点をあて、生徒が主体的に英語を使うことができるように、学習到達目標を「既習事項などを使って、自分の思いや考えなどを英語で話したり、尋ねたりして会話を続けることができる」と設定し、ペアでの「やり取り」を継続的に指導していく。その際、生徒が話しやすい内容の題材を選び、表現する場面を多く設定し、話す力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

事前に行ったアンケートの結果では「英語が好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が、全体の 47.1%だった。また「英語で外国人と話してみたい」「どちらかといえば話してみたい」と答えた生徒は 68%と半数を超えていた。話すことに興味のある生徒が多いと考える。生徒の実態をみると、既習事項の定着に差がある。また定期テスト等で成績上位の生徒の中にも、話すことに苦手意識を持っている生徒もいる。

(3) 指導観

「学習指導要領」で新しく追加された「やり取り」の領域を通して、生徒に思いや考えを伝え合う力を育みたい。しかし、既習事項の定着に差が見られることから、導入時の帯活動では一年時に使用した教科書を使って既習事項を復習するという工夫を行う。また、話すことに苦手意識のある生徒がいることから、より多くの相手と話す機会を持つことができるようにするなど言語活動を工夫し、生徒が英語を使って自分の思いや考えを伝え合うことができるようになることを目指したい。

4 評価規準

ア 知識及び技能					
話す	書く	聞く	読む		
やり取り	発表		本文内容の概要を把握している。		
助動詞 will、be going to の意味・語形・使い方を理解している。					
イ 思考力・判断力・表現力等			ウ 主体的に学習に取り組む態度		評価
話す	書く	聞く	読む		ア 定期テスト イ インタビューテスト ウ 活動の観察
やり取り	発表				
英語を使って自分の思いや考えを伝えることができる。					
相手に配慮して会話を継続させようとしている。					



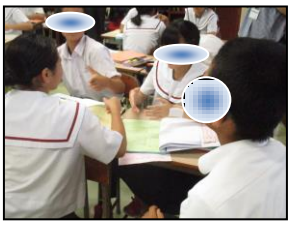
5 指導と評価の計画 (全 11 時間)

時	○ねらい・学習活動	□評価規準 (評価方法) ◆検証の視点【方法】
1	○事前アンケート ○インタビューテスト (評価) ・ALT が一人一人の生徒にインタビューテストを行う。 ・自分の思いや考えなどを英語で説明したり、質問に答えたりする。	
2	○単元に身に付ける技能や目標を知る。 ・授業の流れと評価方法を確認する。	態度 相手に配慮して会話を継続させようとしている。(観察)

	<p>自分の思いや考えなどを英語で話したり尋ねたりして会話を継続させることができる。</p> <p>○英語を話すときに大切な3つのことを確認</p> <p>1. 英語の上手さよりも伝えたいことを一生懸命伝えよう。 2. 今まで習った単語や表現を使って表現しよう。 3. 相手に優しさをもって話したり聞いたりしよう。</p>	<p>思・判・表 帯活動・ロールプレイで自分の思いや考えを英語で表現している。(観察)</p> <p>知・技 助動詞 will の意味・語形・使い方を理解している。(定期テスト・後日)</p>
2	<p>○助動詞 will の意味・語形・使い方を理解する。</p> <p>・帯活動① (ペア活動) 昨年度使用した教科書を使って台詞を考える。(一般動詞復習)</p> <p>・教師の Small Talk Topic : 「Sports ①」</p> <p>・助動詞 will の表現を用い、口頭練習をする。</p> <p>・ペアでの「やり取り」① (ロールプレイ)</p> <p>目的や場面状況など 東京旅行でやりたい項目を選んで旅行代理店の人に伝える。①</p> <p>・「やり取り」の内容を書く。 ・自己評価カードの記入</p>	<p>◆ペアと協力して「やり取り」をしている。(観察、ワークシート)</p>
3	<p>○本文のあらすじをつかむ。</p> <p>・ペアでの「やり取り」② (ロールプレイ)</p> <p>東京旅行でやりたい項目を選んで旅行代理店の人に伝える。②</p> <p>・「やり取り」の内容を書く。</p> <p>・教師と生徒が「やり取り」をしながら本文のあらすじを確認する。</p> <p>・音読をする。 ・自己評価カード記入</p>	<p>知・技 本文の内容に関して必要な情報を読み取ることができる。</p>
4	<p>○助動詞 will の疑問文と否定文の意味・語形・使い方を理解する。</p> <p>・帯活動② (ペア活動) 昨年度使用した教科書を使って台詞を考える。(一般動詞の否定文復習)</p> <p>・教師の Small Talk Topic : 「Food」</p> <p>・助動詞 will の表現を用い、口頭練習をする。</p> <p>・ペアでの「やり取り」③ (ロールプレイ)</p> <p>目的や場面、状況など お母さんに予定を伝える。</p> <p>・「やり取り」の内容を書く。</p> <p>・自己評価カードの記入</p>	<p>態度 相手に配慮して会話を継続させようとしている。(観察)</p> <p>思・判・表 帯活動・ロールプレイで自分の思いや考えを入れて英語で表現している。(観察)</p> <p>知・技 助動詞 will の疑問文・否定文の意味・語形・使い方を理解している。(定期テスト・後日)</p> <p>◆ペアと協力して「やり取り」をしている。(観察、ワークシート)</p>
5	<p>○本文のあらすじをつかむ。</p> <p>・帯活動③ (ペア活動) 昨年度使用した教科書を使って台詞を考える。(一般動詞の疑問文復習)</p> <p>・教師の Small Talk Topic : 「Sports ②」</p> <p>・教師と生徒が「やり取り」をしながら前頁の復習をし、本時のあらすじを確認する。 ・音読をする。 ・自己評価カードの記入</p>	<p>知・技 本文の内容に関して必要な情報を読み取ることができる。</p>
6	<p>○be going to の肯定文と否定文の意味・語形・使い方を理解する。</p> <p>・帯活動 (ペア活動) 昨年度使用した教科書を使って台詞を考える。(教えられる名詞の単数、複数)</p> <p>・教師の Small Talk Topic : 「Movie」</p> <p>・be going to の表現を用い、口頭練習をする。</p> <p>・ペアでの「やり取り」④ (ロールプレイ)</p> <p>目的や場面、状況など 自分の予定を伝えながら友達の誘いに応える。</p> <p>・「やり取り」の内容を書く。</p> <p>・自己評価カードの記入</p>	<p>態度 相手に配慮して会話を継続させようとしている。(観察)</p> <p>思・判・表 帯活動・ロールプレイで自分の思いや考えを入れて英語で表現している。(観察)</p> <p>知・技 be going to の肯定文と否定文の意味・語形・使い方を理解している。(定期テスト・後日)</p> <p>◆ペアと協力して「やり取り」をしている。(観察、ワークシート)</p>
7	<p>○本文のあらすじをつかむ。</p> <p>・帯活動 (ペア活動) 昨年度使用した教科書を使って台詞を考える。(How many ~s の復習)</p> <p>・教師の Small Talk Topic : 「Music」</p> <p>・教師と生徒の「やり取り」をしながら本文のあらすじを確認する。</p> <p>・音読をする。 ・本文内容に関する問題を解く。 ・自己評価カードの記入</p>	<p>知・技 本文の内容に関して必要な情報を読み取ることができる。</p>
8 本時	<p>○be going to の疑問文の意味・語形・使い方を理解する。</p> <p>・帯活動 (ペア活動) 昨年度使用した教科書を使って台詞を考える。(「何を」「何が」と尋ねたりそれに答えたりする。)</p> <p>・教師の Small Talk Topic : 「TV program」</p> <p>・be going to の表現を用い、口頭練習をする。</p> <p>・ペアでの「やり取り」⑤ (ロールプレイ)</p> <p>目的や場面、状況など アメリカ人の友達と一緒に映画に行く予定を立てる。</p> <p>・「やり取り」の内容を書く。</p> <p>・自己評価カードの記入</p>	<p>態度 相手に配慮して会話を継続させようとしている。(観察)</p> <p>思・判・表 帯活動・ロールプレイで自分の思いや考えを入れて英語で表現している。(観察、ワークシート)</p> <p>知・技 be going to の疑問文の意味・語形・使い方を理解している。(定期テスト・後日)</p> <p>◆ペアと協力して「やり取り」をしている。(観察、ワークシート)</p>

9	○本文のあらすじをつかむ。 ・教師と生徒が「やり取り」をしながら本文のあらすじを確認する。 ・音読をする。 ・本文内容に関する問題を解く。 ・自己評価カードの記入	知・技 本文の内容に関して必要な情報を読み取ることができる。
10	○事後アンケート ○インタビューテスト (評価) ・ALTが一人一人の生徒にインタビューテストを行う。(ALTとの「やり取り」) ・自分の考えや気持ちなどを入れて英語で説明したり、質問に答えたりする。	態度 相手に配慮して会話を継続させようとしている。(観察) 思・判・表 会話の内容に関して自分の思いや考えを入れて英語を使って表現している。 ◆ALTとのインタビューテスト
11	○インタビューテスト (評価) ・ALTが一人一人の生徒にインタビューテストを行う。(ALTとの「やり取り」) ・自分の考えや気持ちなどを入れて英語で説明したり、質問に答えたりする。	態度 相手に配慮して会話を継続させようとしている。(観察) 思・判・表 会話の内容に関して自分の思いや考えを入れて英語を使って表現している。 ◆ALTとのインタビューテスト

6 本時の指導 (第8時)

	生徒の学習活動	指導上の留意点	検証の視点
導入 18分	1 Greeting 2 帯活動1年の教科書の台詞を考える。 (L2c 「何を」「何が」と尋ねたりそれに答えたりする。) &small talk(TV program) (教師と2分、横ペア1分) ※横ペア ※既習事項を使って1分間 会話が続けられるか挑戦する。 	・「話すときに大切なこと」を黒板に掲示 ・Small Talk は生徒と「やり取り」をしながら進める。	視点1 即興で「やり取り」する場面を設定することで、自分の思いや考えを英語を用いて「やり取り」しているか。
展開 27分	3 テーマを提示する。 友達に夏休みの予定を尋ねることができる。 4 教師の夏休みのスケジュールの復習 教師からの口頭での質問に答える。 5 夏休みの予定を尋ね合う。 ※縦ペア 6 即興での英語での「やり取り」① (ヒントなし) 目的や場面、状況など アメリカ人の友達と映画を見に行く計画を立てる。 ※会話の出だしの文を提示する。 ※斜めペア ※「やり取り」が続くために必要な質問を全体で考える。 (生徒が発言した質問を板書) 7 即興での「やり取り」② ※斜めペア 「やり取り」内容を書く。(3分で終わって残りは宿題) 	 ・1分間「やり取り」を続けるように促す。 ・間違いを恐れず、英語で伝えさせる。 ・今まで学んだ表現を用い、できるだけ「やり取り」を続けるよう促す。 ・2分間「やり取り」に挑戦させる。	視点2 「目的・場面・状況」を明示することにより、新出表現や既習事項などを使用して「やり取り」しているか。
まとめ 5分	8 本時のまとめと振り返り Today's challenge を記入 (友達に夏休みの予定を尋ねる文) ・自己評価カードの記入 (気づき&発見&学び、疑問、感想など)	・Today's challenge として導入した新出表現を使っての一文を書かせる。 ・本時を振り返り、めあてを達成できたか自己評価シートに記入させる。	

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前・事後のインタビューテスト、事前・事後のアンケート、ワークシートの記述や自己評価、観察を基に行った。

1 即興で「やり取り」をする言語活動の実際

(1) 即興で「やり取り」する言語活動の設定

導入時と展開時に、即興で「やり取り」をする場面を設けた。お互いを知りクラスの和をさらに深めるために、即興での「やり取り」では意識して相手を替えさせ、それぞれが、多くの級友と話

す機会を持てるようにした。ペアの作り方の例としては、縦ペア・横ペア・斜めペアの他にも号車間でのペア替えや、15秒以内でできるだけこれまで話したことのない者同士でペアを作らせるなど、日によってペア作りを工夫した。

① 導入時の即興での「やり取り」Small Talk

導入時には、生徒が昨年度使用した教科書の内容を使って復習をした後に、Small Talk を行った。Small Talk では、その後の生徒間の自由な会話に繋がるように、身近な話題を取り上げた。初めに、教師がモデルを示しながら「やり取り」を進め、徐々に生徒全体に問いかけたり、指名して答えさせたりした。食べ物について話す場面では、「What kind of food do you like? 」という問いかけに対して、英語が苦手な生徒は、それぞれ自分の好きな種類の料理を、単語だけで表現したり、ジェスチャーも交えたりするなど工夫しながら、一生懸命答えようとした。その過程で答えるのに時間がかかった生徒がいた。その生徒へ「Japanese food? Italian food? French food? …」と例を与えたがその生徒は与えられた例からは選択せず、じっくり考えて、「中国」と自分の思いを日本語で伝えた。その後、英語で「I like Chinese food.」と表現させた。「中華料理が好き」という英語の表現は思いつかなかったが、それまでの他の生徒と教師の対話から、教師の問いかけの意味を推測、理解し、自分の言いたい表現を「やり取り」の場面で習得できた貴重な体験だったと考える。与えられた表現のみを使ってのドリルやゲームとは違い、「自分の思いや考えを伝えるための英語表現」を習得することができた。生徒同士も「やり取り」を通して、お互いにいろいろな表現を学んでいる場面が伺えた。このように授業が実際のコミュニケーションの場となり生徒同士が会話を楽しんでいる姿が観察できた。教師と生徒の Small Talk の後、生徒同士がペアで与えられた話題に関して即興で「やり取り」する場面を設定した。第1時から第4時までは手だてとして、会話の1文目を与えていたが、トピックを確認すると「やり取り」を始めるペアが増えていったので第5時以降はトピックのみを与え、会話の始めから自由に「やり取り」ができるようにした。第1時では、ほとんど話すことができなかった生徒も、回数を重ねる毎に発話量が増えていき、意欲的に「やり取り」をする様子が伺えた。

② 展開時の即興での「やり取り」

新出表現事項を導入した後、与えられた「目的や場面、状況など」における即興で「やり取り」する場面を設定した。「やり取り」がスムーズにいくための手立てとして、初めの2、3文を提示した。初めは、ヒントを与えずに1分間「やり取り」の場を設けた。即興で行うことにより生徒それぞれに「表現できること」「言いたいけど表現できないこと」を自覚させた。会話を続け

英語の上手さよりも伝えたいことを伝えよう

今まで習った単語や表現を使って表現しよう

相手に優しさを持って話したり聞いたりしよう

英語を話す時に大切な事 (毎時間掲示)

会話を継続させるために有効な質問 (生徒の発言から)

What do you watch? Where do you watch? Where do we meet?
 When do you watch? When do we meet?
 How do we go?

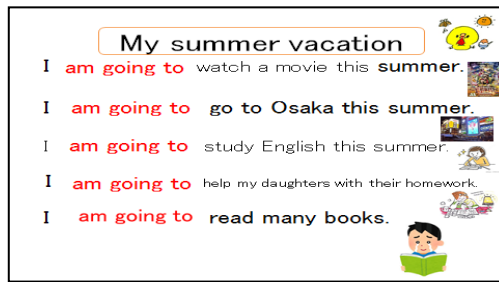
資料1 本検証授業の板書

られないペアへの手立てとして、1回目の「やり取り」の後、「やり取り」を継続させる為には有効な具体的な質問をクラス全体で考えた。質問は全て生徒の発言から作り、板書した(資料1)。質問のみをヒントとして与えることにより、「やり取り」の内容はパターン化せずにそれぞれのペアがオリジナルの「やり取り」ができるようにした。その後、2回目の1分間「やり取り」の場面を設けた。第8時目では、これまで参加できなかった生徒が会話に参加していた。また初めて2分間続けられるかに挑戦させたが、2分間「やり取り」を継続できたペアがあった。全体

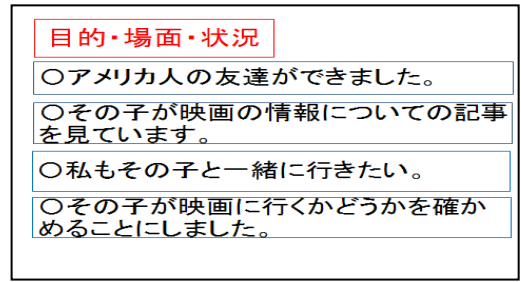
的に、意欲を持って「やり取り」をしている様子が伺えた。

(2) 「目的や場面、状況など」を明示する言語活動の設定

新出表現や既習事項を使って自分自身の思いや考えを表現させるために、具体的に「目的や場面、状況など」



資料2 新出表現導入の画面

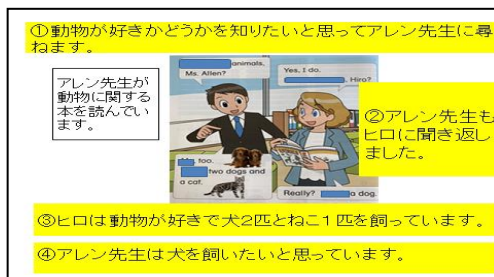


資料3 「目的や場面、状況など」の提示

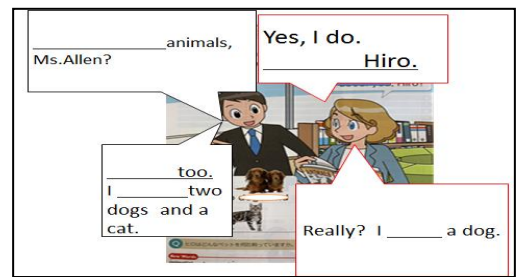
を提示して行う言語活動の場を設定した。資料2、3は第8時の本検証で実際に使用した資料である。新出表現である未来表現の導入として教師の夏休みの予定をモデルとして提示し、未来表現の使い方をイメージさせると共に興味を持たせるよう工夫した(資料2)。次に、お互いで未来表現を使って尋ね合ったりするなど口頭でのドリル活動を行った。その後、実際にその時間に導入する表現を使用する即興の場面設定を提示し、思いや考えを伝え合う場面を設定した。(資料3)。

(3) 既習事項を使って表現力を付けさせる

表現力を高めるための工夫として授業の導入時に帯活動として1学年の教科書を使っての復習を取り入れた。



資料4 1学年の教科書①



資料5 1学年の教科書②

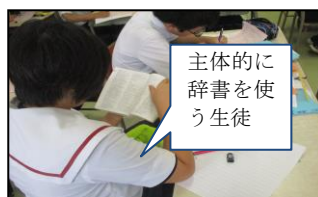
内容は教科書の台詞を考えるというものである。資料4、5は第6時の授業で使用したものである。資料4にあるように、初めに会話の「目的や場面、状況など」を提示し、「目的や場面、状況など」を意識した上で台詞を考えさせた。次に、資料5にあるように英文を与え下線に入れる語を考えさせるようにした。しかし慣れてくると多くの生徒が資料4の段階で台詞を言い始めた。英語が苦手な生徒も資料5を提示すると英文を参考にペアで台詞を考える活動に積極的に参加した。昨年度使用した教科書を用いての復習では、生徒に馴染みのある場面であったので、英語を苦手とする生徒でも抵抗なく活動に取り組んでいる様子が観察できた。また、それぞれの場面で取り上げられている会話のヒントなども再確認することができた。資料6は1つの例である。このページでは「Really?と相手の言ったことを聞き返すことで会話が自然に継続される」ということを確認することができた。授業における即興での「やり取り」でも帯活動で復習した既習事項を意識して使っている様子が多く見られた。



資料6 1学年の教科書③

(4) 主体的に学ぶ様子

「即興でのやり取り」の時間には生徒は新出表現や既習事項を使って、自己表現することを楽しんでいる様子が観察された。最初は話すことに苦手意識を持っていた生徒も、言いたいことが言え



資料7 生徒の様子①



資料8 生徒の様子②

るようになっていった。また、お互いの会話の言いたい表現に気付いたり、自主的に辞書を使用したり（資料7）既習のプリントなどから自分自身の言いたいことを探し、表現につなげる姿が観察された。ペアで「やり取り」をワークシートにまとめる作業では多くの生徒が真剣に作業に向かう様子が観察された（資料8）楽しみながら、お互いの事を知る本当のコミュニケーションの場となり、英語を学びたいという主体性の育成に繋がったと考えられる。

2 研究仮説の検証

(1) インタビューテストによる英語で思いや考えを伝え合う力の分析

検証前後に、ALTによるインタビューテストを行った。テストは検証前（過去形）検証後（未来表現）の「目的や場面、状況など」を提示して自分の思いや考えを伝えるという内容である。テスト項目は表2のように「態度・内容・語彙・発音・流暢さ・文法」で構成し、それぞれ3点満点、

表2 インタビューテストの評価規準

	態度	内容	語彙	発音	流暢さ	文法
3	声の大きさや表情(アイコンタクトなど)聞く態度などを工夫し対話を続けるように努力した。	「目的や場面、状況など」を把握し内容を適切に伝える事ができたり相手の言いたいことが分かった。	語彙の使用は適切である。	発音やイントネーション、強勢は適切である。	無理なく自然な強さや流れで話すことができる。	文法の使用は適切である。
2	声の大きさや表情、聞く態度などのどれかはできていないが対話を続ける努力をした。	「目的や場面、状況など」を理解しているが、相手の話す内容を十分には理解できず、また、伝える事も十分ではなかった。	語彙の言い間違いや不適切な使用があるが、コミュニケーション上で問題ない程度である。	発音やイントネーション、強勢の一部に聞き取りにくいものがあるが、コミュニケーションのうえで問題ない程度である。	話す速さや流れに不自然なところがあるが、コミュニケーションのうえで問題ない程度である。	文法上の誤りはあるが、コミュニケーションのうえで問題ない程度である。
1	声の大きさや表情、聞く態度などを工夫せず、対話を続けるように努力もしなかった。	「目的や場面、状況など」を理解しているが、伝えるべき内容を伝えきれていない。また、相手の意図を十分に理解していない。	語彙の言い間違いや不適切な使用があり、コミュニケーションのうえで不都合が生じることがある。	発音やイントネーション、強勢の一部に聞き取りにくいものがあり、コミュニケーションのうえで不都合が生じることがある。	話す速さや流れに不自然さがあり、コミュニケーションのうえで不都合が生じることがある。	文法上の誤りがあり、コミュニケーションのうえで不都合が生じることがある。

合計18点で採点した。検証前は合計点15点以上の生徒が7人に対して検証後は、9人増加の16人となった(表3)。テストの内容が事前テスト(過去形)と事後テスト(未来表現)と異なり、事後テストにおいては提示された「目的や場面、状況など」に応じて自分の思いや考え

表3 インタビューテストの結果

	検証前	検証後
15点~18点	7人	16人
10点~14点	23人	14人
9点以下	3人	3人

を述べるということには慣れていたという差はある。よって、今回は特に「態度・内容・語彙」の項目に焦点を置き検証した。33人の生徒がテストを受け事前・事後とも3項目(態度・内容・語彙)に関して全て満点の生徒が5人いた。残りの生徒の中で態度・内容・語彙に関して1つ以上点数が上がっている生徒は28人中20人いた。実際、事前テストに比べて多くの生徒が自分自身の思いや考えを伝えようと努力していた。言語習得には時間がかかる。しかし、自分自身が伝えたいことを一生懸命伝える態度の育成に有効な授業内容であったと考える。「自分の思いや考えを伝える力」の土台となる力を育成できたと考える。また、ALTから「検証前に比べて全体的に生徒が積極的に伝えようとしていた。」という感想があった。今後も言語活動を継続することで「思いや考えを伝える力」を更に伸ばすことが出来ると思う。

(2) アンケートの分析

① 英語を使って思いや考えを伝える

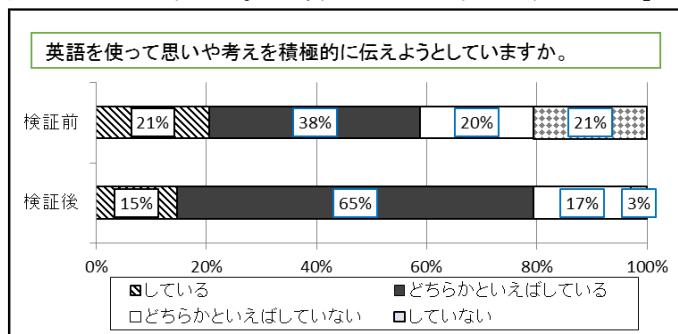


図1 思いや考えを伝えることに関するアンケート

ことについて

英語を使って思いや考えを積極的に伝えようとしていますか」という問いに関しては、検証前は59%の生徒が「している・どちらかといえばしている」と答えたのに対して、検証後は80%の生徒が「している・どちらかといえばしている」と答えた。21ポイントの増加がみられた(図1)。理由としては「伝わりと嬉しいから」「相手に自分の考えをしっかりと伝えたいから」等があった。

② 即興で「やり取り」することについて

図2、図3は検証前、検証後に行ったアンケートの結果である。検証前は、「即興でやり取りをすることが好きですか。」という質問に対して30%の生徒が「好き・どちらかといえば好き」と答えているのに対し、検証後では47%と17ポイント増えている(図2)。理由としては「難しいけど伝わりと嬉しいから」「楽しい」「表現するのを考えるのが好き」「間違っても会話を楽しむことができたから」「自分の力だけで『やり取り』できるから」という感想があった。また、「英語を使って即興で『やり取り』することができますか」という質問に関しては検証前は、「できる」が0人だったが、検証後は2人の生徒が「できる」と答えている(図3)。「どちらかといえばできる」と答えた生徒も15%から47%と32ポイント増えた(図3)。理由として、「初めに比べたらできるようになった」「単語を使って何とかできるから」「授業で話すことが増えたから」等があった。アンケートの結果からも、「即興でやり取りすることについて肯定的に捉える生徒が増えたことがわかる。

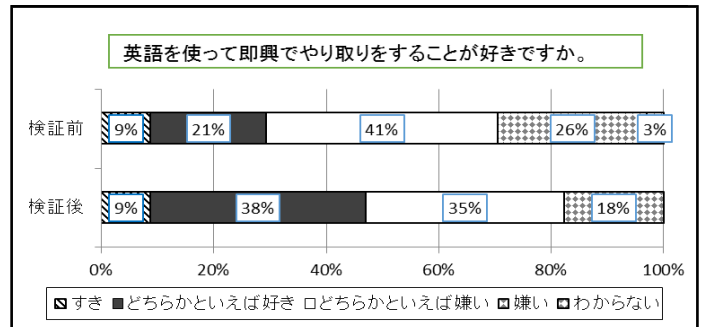


図2 即興での「やり取り」に関するアンケート①

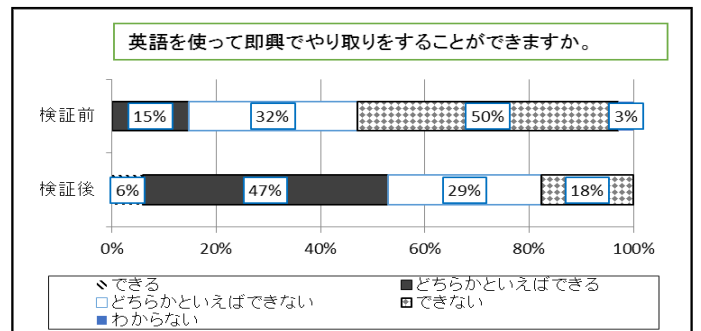


図3 即興での「やり取り」に関するアンケート②

③ 「目的や場面、状況など」について

「英語を使うとき、目的や場面や状況などを意識していますか」という問いに関しては「している・どちらかといえばしている」と答えた生徒が検証前は41%だったのに対して検証後は73%になり32ポイント増加した(図4)。与えられた「目的や場面、状況など」を意識しながら思いや考

えを伝え合うことができるようになった生徒が増えたと考えられる。

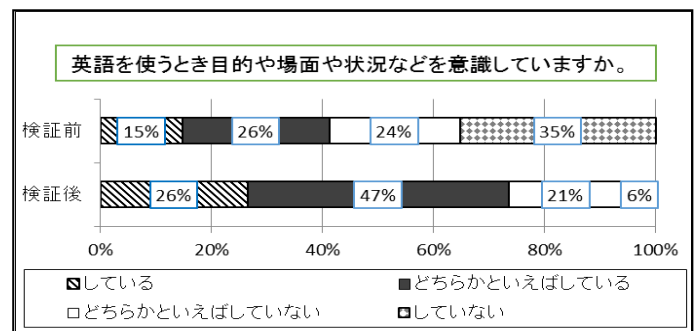


図4 目的や場面、状況などに関するアンケート

④ 相手に配慮しながら

相手へ配慮する態度を育てるための手だてとして第1時に「相手に優しさをもって話したり聞いたりしよう」と大切な事を伝え、検証授業の間はその言葉を黒板左端に常時掲示した(資料1)。「相手に配慮して英語を使うことができますか」というアンケートに対して「できる・ど

「どちらかといえばできる」と答えていた生徒が検証前は 29%だったことに對し、検証後は 47%と増えている(図5)。わずか8時間で 18 ポイントも上昇したということからこれからも継続して意識させることにより相手に配慮する態度を育成することができると考えられる。

⑤ 主体的に学ぶ態度について

図6は辞書に関するアンケートである。検証前は 76%の生徒が「辞書を使えるようになりたい・どちらかといえば使えるようになりたい」と答えているのに対して、検証後は 89%の生徒が使えるようになりたいと答えている。

⑥ コミュニケーション能力

図7はコミュニケーションに関するアンケートである。「即興で行うやり取りでのペア活動によってコミュニケーション能力は高まったと思いますか。」というアンケートに関して、67%の生徒が「思う・どちらかといえば思う」と答えている。「思わない・どちらかといえば思わない」と答えた生徒は 11 人いるが、その中の 3 人は英語力以外の理由(話したことの無い人とは話せない等)を挙げていた。3 人の生徒はいずれも ALT とのインタビューテストでは検証前・後共に 15 点以上の高い点数を獲得している。改めて日頃の生活におけるコミュニケーション能力を身に付けさせることがとても重要だと考えさせられた。

(3) 生徒の感想

単元終了後の生徒の感想からも、思いや考えを伝える力が伸びたと実感している様子が確認できた(資料9)。

<p>☆この Lesson を終えての感想・勉強になったこと☆ 自分の力で話そうとすると自然に言葉が出てくるんだなあと思いました。特に、友達を助けたり、伝えたり能力を高めることができました。今回の授業を通して 話す力、理解する力が高まったと感じました。</p>	<p>☆この Lesson を終えての感想・勉強になったこと☆ Lesson 3 の授業でとても英語を話せるようになったと感じた。もっとしゃべれるようになりたい。</p>
<p>☆この Lesson を終えての感想・勉強になったこと☆ いつものより「話す」授業が、わりと、理解できた上での、受けられた気がする。これから英語の勉強の仕方を変えて、力を身につけたい。</p>	<p>☆この Lesson を終えての感想・勉強になったこと☆ 話して新しい表現を覚えたので、いつもより身についたと思います。</p>

資料9 単元終了後の生徒の感想

(4) 生徒の変容

資料10・11・12は同じ生徒の第2時・第4時・第6時のペアでの「やり取り」の内容を書かせたものである。1分間という短い時間ではあるが会話の量が増えているのがわかる。また、自分の思いや考えを表現し、会話を楽しんでいる様子が伺える。文法的には誤りのある表現もあるが自分自身の思いや考えを伝えようとしている様子がみられる。

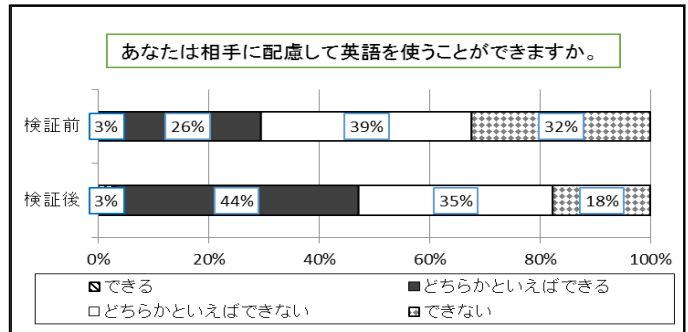


図5 相手に配慮することに関するアンケート

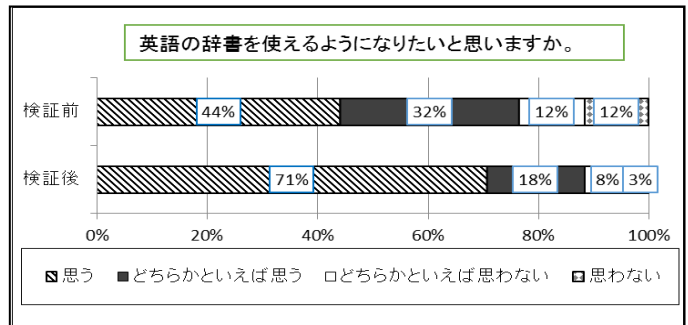


図6 辞書に関するアンケート

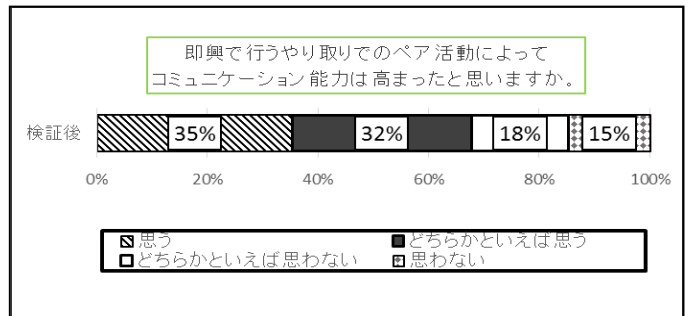


図7 コミュニケーションに関するアンケート

第1回

東京旅行でしようと思っていることを伝えることができる

A: Please choose one and tell me why.

B: OK, so I will see a professional baseball game in Tokyo.

A: Really? Do you like baseball?

B: Yes, I do.

A: Do you play baseball?

B: Yes, I do.

資料10 ペアでのやり取り (第2時)

第2回

日曜日にしようと思っていることを伝えることができる

A: Will you be at home this Sunday?

Will you help me?

B: Sorry, I won't be at home.

I will go to under the bridge.

A: Why?

B: I will practice baseball.

A: Who do you go with?

B: Katumi and Hiyuu.

A: OK.

資料11 ペアでのやり取り (第4時)

第3回

自分の予定を伝え、友達の誘いに応えることができる

A: Excuse me?

Let's go to watch a movie on Saturday?

B: Sorry, I'm going to go to my grand father's house.

A: How about Sunday?

B: Sorry, I'm going to practice baseball

in the morning. But afternoon Let's go.

A: What do you watch a movie?

B: I want to watch a animation movie.

A: OK, so when meeting time?

B: At three thirty afternoon.

資料12 ペアでのやり取り (第6時)

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 英語学習において、言語活動を工夫することにより英語を使って思いや考えを伝え合う力を養うことができた。
- (2) 即興で「やり取り」する場面を与えることにより「どう表現したらいいのか」という問いをもたせることができ、主体的に学ぶ態度を育成することができた。
- (3) 新出表現に重点を置いた文法中心の授業から既習事項や新出表現を用いて、思いや考えを伝え合う、実生活で使えるようなコミュニケーション能力を意識しての授業へ改善することができた。

2 今後の課題

- (1) 授業を通してお互いに「やり取り」する機会をより多く設け、コミュニケーション能力を育む。
- (2) 書く活動や読む活動の際も「やり取り」を通して力を育成できるように指導法を工夫する。

〈主な参考文献〉

- | | | |
|-------------|----------------------------------------------------------|-------|
| 文部科学省 | 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 | 2018年 |
| 大城賢 | 「コミュニケーション能力を養成する授業と評価の工夫
～授業実践記録～」 沖縄国際大学外国語研究第2巻第2号 | 1998年 |
| 田中武夫・田中知聡 著 | 『自己表現活動を取り入れた英語授業』 大修館書店 | 2008年 |